

# 道のり

## ワークショップ開催までの

### Step1 テーマの選定

自動運転技術に関わる議論は、単に技術的なテーマではなく、大きな社会インフラの整備に関わるような社会的広がりをもったテーマです。

### <ワークショップのデザイン>

### Step2 自動運転技術に関する情報収集

関連する報告書などを探して、自動運転技術に関してこれまでにどのような議論がなされてきたのかを把握しました。

### Step3 ワークショップのタイトル決定

今回のワークショップで議論すべき課題を絞りこみます。ワークショップのタイトルが「自動運転のある暮らし：誰もおいていかない移動のデザインとその倫理」に決まりました。

### Step4 対話ツールの方向性を検討

自動運転技術が進展・普及することによる社会へのインパクトについて、主に倫理的な観点に着目した議論を促進するための「対話ツール」を作成すべく、Step2で収集した情報を参考にしながら、方向性を検討しました。

### <対話ツールのデザイン>

ワークショップに使用した対話ツール  
企画・制作：山崎吾郎、工藤亮  
デザイン・イラスト：アトリエ・カプリス

### Step6 授業などでの試行

大学の授業など、グループディスカッションを実施する機会に、試作の対話ツールを用いて、ワークショップの試行を行いました。

### Step5 対話ツール試作

自動運転技術について提供する情報の内容・種類や、対話を行う上での「問い」について、検討を行いました。科学技術をめぐる状況を絵と文章で伝えることを目指した「絵本形式部分」、自己紹介のためのワークシート、対話をスタートさせるための問いが含まれている2種類のワークシート（「問いかけ部分」）の試作版ができました。

### Step7 ゲストとの打ち合わせ

ワークショップに参加していただくゲストと打ち合わせを行い、ワークショップの趣旨や設計についてアドバイスをいただきました。

### Step8 対話ツールの再検討

Step6やStep7で得られた知見をもとに、提供する情報の内容や問いかけの文言などを改訂しました。

### Step10 告知・参加者募集

ワークショップ開催概要を掲載したWEBサイト、申し込みフォーム、チラシなどを作成して、参加者の募集を行いました。

### Step9 対話ツール完成

ワークショップ当日に使用する対話ツールが完成しました。

### Step11 ファシリテーション講習

ワークショップ当日の午前、グループファシリテータをつとめる学生8人に対して、事前講習を行いました。

## グループファシリテータとして参加した学生の学び

今回のワークショップでは、グループファシリテータを「公共圏における科学技術・教育研究拠点（STIPS）」で学ぶ大学院生たち8人がつとめました。その中の2人に、ワークショップに参加して気がついたこと、得られた視点などを聞きました。

参加者の方が、ご自身が抱えていらっしゃる病気についてかなり具体的にお話くださったことが印象に残っています。ご自身の体験に基づいた、非常にプライベートな部分に基づいて考え方や感じ方をお話してくださいました。個人の価値観や個人の経験が話のなかに出てくるということは、学生同士のディスカッションではあまりありません。こんなに短い時間でも、その人が生きてきた人生における価値観や経験が色濃く反映されるんだな、ということを実感しました。  
(大阪大学大学院理学研究科 博士前期課程 1年)

ワークショップで改めて感じたのは、一般の人は、たとえ高度な科学技術に関する話題であっても、自分自身が生活している中で経験したことや実感したことに基づいて話すと、ということでした。僕たち学生がそのような場で話すと、もう少し抽象的になると思うのです。大学という枠の外でさまざまな背景を持つ人と話すことで初めて感じる事ができたことだと思います。  
(大阪大学大学院基礎工学研究科 博士前期課程 1年)

